

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。（Since 2006）

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ JRRN 会員寄稿記事	5
➤ 「リバフロサポートセンター」からのお知らせ	7
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	8

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及促進プロジェクトーこれから開催する「小さな自然再生」現地研修会のご案内

12/11（日）に京都府宮津市で開催する第 16 回「小さな自然再生」現地研修会の参加申込みを 12/5（月）まで受付けております。詳しくは次頁の案内チラシをご覧ください。

また、第 17 回現地研修会は来年 1/14（土）に開催いた

たします。12 月中旬を目処に、プログラム詳細を JRRN ウェブサイトや facebook 等に掲載し、参加募集を開始する予定です。もうしばらくお待ちください。

皆様のご参加をお待ちしております。

（JRRN 事務局・白尾豪宏）

第 16 回「小さな自然再生」現地研修会 in 京都府宮津市・大手川

- ◆開催日： 2022 年 12 月 11 日（日）
- ◆場所： 京都府宮津町・大手川
- ◆共催： 京都府立宮津天橋高等学校フィールド探究部

2004 年大洪水の後に災害復旧として住民対話により整備された親水空間の生物多様性を高め、また地域の人々の交流拠点として賑わいを復活させるために「小さな自然再生」でできることは何か、座学と実践を通じて参加者とともに学び合います。詳細プログラムは以下の URL 及び次頁の案内チラシをご覧ください。

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/1322.html>



第 17 回「小さな自然再生」現地研修会 in 茨城県・霞ヶ浦

- ◆日時： 2023 年 1 月 14 日（土）
- ◆場所： 茨城県美浦村・霞ヶ浦
- ◆共催： NPO 法人水辺基盤協会
- ◆協力： 国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦河川事務所

水質浄化施設として整備された小さな水路と霞ヶ浦本湖の連続性を回復し、魚類など生物の生育・生息場としての価値を高め、またこの水路を地域の環境学習の場として活かしていくことを目的に、半日でできる手づくり魚道を制作し、その機能や生物モニタリング手法について学びます。



第16回 京都府宮津市・大手川

「小さな自然再生」現地研修会

参加者
募集

～フナの里帰り：自然と親しむ空間を復活させよう～

開催日
令和4年 **12月11日** 日

【開催趣旨】大手川では、平成16年大洪水の後、住民参加による多自然川づくりワークショップを通じて地域の人々が川に親しむ親水空間が整備されましたが、土砂堆積や樹木繁茂など、この親水空間の維持管理が課題となっています。本研修会では、かつて大手川にも生息していた“フナ”をターゲットに、この貴重な自然と親しむ空間の生物多様性を高め、また地域の人々の交流拠点として賑わいを復活させるために「小さな自然再生」でできることは何か、座学と実践を通じて参加者とともに学び合います。また、地元で活動に取り組む京都府立宮津天橋高等学校フィールド探究部（フィー探）と共に、フィー探から地元地域へ、生き物が好きな人たちへと、川と地域をつなげていくためのアイデアも交換します。

開催日時 令和4年12月11日（日）9：00～16：00

会場 京都府宮津市 <座学：京都府立宮津天橋高等学校 宮津学舎／現地：大手川・福田地区>

対象 小さな自然再生に関心のある方々

定員 50名（予定）

参加費 無料

新型コロナウイルス感染拡大状況により参加者数を縮小したり、中止する場合があります。

持ち物 長靴（お持ちの方は胴長）、作業用手袋、防寒着、昼食

プログラム ※プログラム及び講演タイトルは一部変更の可能性もあります。 ※悪天候の場合は、午後は室内プログラムを用意しています。
※主催者側で行事保険に加入いたします。

(9:00-12:30) 小さな自然再生でできることを考える座学研修 (司会進行：宮津天橋高等学校フィールド探究部)

- 開会挨拶・趣旨説明
- 水と土砂がつくる川の地形～水の力を活かすバープ工（原田守啓：岐阜大学流域圏科学研究センター）
- モウソウチクを用いた竹蛇籠魚道の開発と水域連続性の再生（山下慎吾：魚山研）
- フナ類の生息環境について（白尾豪宏：公益財団法人リバーフロント研究所）
- 竹蛇籠製作実習（山下慎吾：同上）
- 大手川の未来をテーマに意見交換

(12:30～13:30) 昼食 及び 福田地区への移動

(13:30～16:00) 福田地区親水空間でできる小さな自然再生の実践 及び フィールド探究部の生物調査紹介

■現地技術指導：原田守啓（同上）、山下慎吾（同上）、岩瀬晴夫（株式会社北海道技術コンサルタント）

(16:00) 閉会 ※大手川・福田地区現地解散



公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。

主催：宮津天橋高等学校フィールド探究部、「小さな自然再生」研究会、日本河川・流域再生ネットワーク
協力：京都府丹後土木事務所、宮津市教育委員会、公益財団法人リバーフロント研究所

JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)活動 – 「第 18 回 ARRN 水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」<12月7日(水)午後・オンライン>開催案内

本年度で 18 回目となるアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)主催行事『水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム』を、2022年12月7日(水)午後オンライン形式にて開催致します。

本年度は「NBS-based Ecological Restoration and Integrated Management of River Basins」をテーマに、ARRNを構成する日中韓 3RRNより各国3題の発表を行います。(計9題)

本フォーラムは Zoom にて聴講頂けますので、ご興味のある方は以下の方法でご参加ください。

<第 18 回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム>

【日時】 2022年12月7日(水) 14:00-18:00

【形式】 Zoom オンライン形式

※聴講に必要な Zoom 情報は以下の URL 内の案内チラシ内に掲載しています。

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/1334.html>

【主催】 アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)

これまでの ARRN 国際フォーラム開催履歴

回数	開催年月	開催地	備考
1	2005.1	東京	ARRN 設立前準備会
2	2005.10	東京	ARRN 設立前準備会
3	2006.11	東京	ARRN 設立式典併催
4	2007.11	東京	
5	2008.11	北京	第 4 回 APHW 分科会
6	2009.9	ソウル	第 5 回 KICT ワークショップ
7	2010.9	ソウル	ISE2010 分科会
8	2011.11	東京	
9	2012.11	北京	
10	2013.9	成都	第 35 回 IAHR 大会
11	2014.10	ウーン	第 5 回欧州河川再生会議
12	2015.4	慶州	第 7 回世界水フォーラム
13	2016.8	仁川	HIC2016 分科会
14	2017.8	マレーシア	第 37 回 IAHR 世界会議
15	2018.8	東京	第 12 回生態水理学国際シンポ
16	2019.10	パリ	第 22 回国際河川シンポジウム
17	2021.11	(オンライン)	オンライン形式での開催
18	2022.12	(オンライン)	オンライン形式での開催

18th ARRN International Forum
亚洲河流生态修复网络第18届国际论坛

NBS-based Ecological Restoration and Integrated Management of River Basins
 基于自然解决方案的流域生态修复与综合治理

Dec. 07, 2022 13:00-17:00 (UTC+8)

Live on Zoom
 Online conference:
<https://zoom.us/j/94605858334?pwd=eUF0c3k0bnBYQkYwRXkdBdGfjTVN3dz08>

Time	Presentation report	Speaker	Chair
13:00-13:20	River basin disaster resilience and sustainability by all as global warming adaptation measures in Japan	Mr. Wada Akira Japan Riverfront Research Center (JRRN)	Prof. Zhao Jinyong Chair of ARRN Technical Committee
13:20-13:40	Improving regulation services by green infrastructure of NBS	Prof. Leehyung KIM Kongju National University (KRN)	
13:40-14:00	Introduction to research on the WB Program undertaken by ARRN	Prof. Zhang Jing Department of Water Ecology and Environment Research IWHR (CRRN)	
14:00-14:10	Q&A		
14:10-14:20	Tea Break		
14:20-14:40	Natural based solutions for eco flood risk reduction	Prof. Hungsoo KIM Inha University (KRN)	Prof. Suk-Hwan JANG Daejin University Chair of KRRN
14:40-15:00	Landscape planning and ecological conservation and restoration in river basins	Prof. Liu Hailong School of Architecture Tsinghua University, (CRRN)	
15:00-15:20	3D River restoration toward digital twin river management	Dr. Nakamura Keigo Chief Researcher, Japan Riverfront Research Center (JRRN)	
15:20-15:30	Q&A		
15:30-15:40	Tea Break		
15:40-16:00	Study on ecological flow velocity to scour benthic algae from a mountainous river	Prof. Xu fengran Department of Hydraulics IWHR (CRRN)	Prof. Shirakawa Naoki University of Tsukuba JRRN Technical Committee
16:00-16:20	Global environmental flow estimation based on fluvial biomass model	Ms. Hayakawa Yuriko University of Tsukuba (JRRN)	
16:20-16:40	In-stream flow in Korea environment-friendly river management	Dr. Jeongkon KIM Vice president of KDEC (KRRN)	
16:40-16:50	Q&A		
16:50-17:00	Closing	Prof. Zhao Jinyong, Chair of ARRN Technical Committee	

※中国・北京の時刻ですので、日本と1時間の時差があります。(+ 1 時間)

扫码观看直播

(JRRN 事務局・和田彰)

JRRN 事務局からのお知らせ (3) JRRN Activity Report

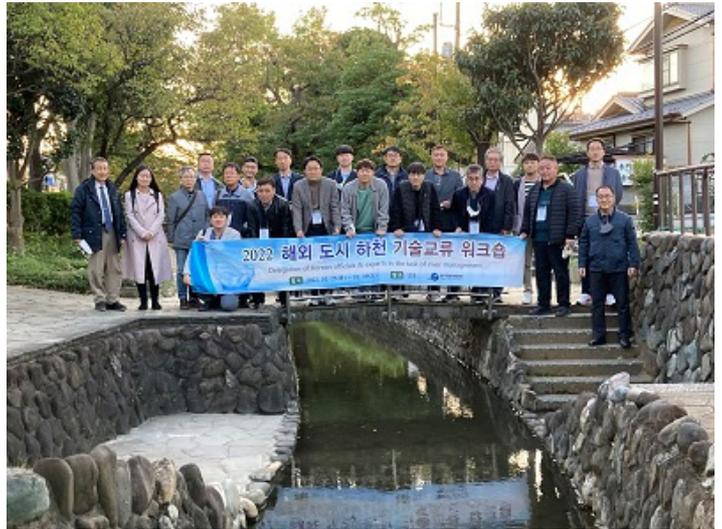
国際交流活動 – 「韓国河川協会」視察団との河川管理に関わる技術交流

2022年10月25日(火)～28日(金)の4日間、韓国河川協会の視察団(自治体職員18名及び河川協会職員5名の計23名)が首都圏の治水対策や河川環境の取組みを学ぶことを目的に来日し技術交流を行いました。

韓国河川協会は「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の韓国窓口組織 KRRN の事務局組織でもあり、JRRN が視察先の事前調整や現地案内等を担いました。

コロナ禍の3年ほどは対面による国際交流行事が実施できませんでしたが、ようやく再開し、今後の国際交流を通じては、日本の川づくりの経験を伝えるとともに、諸外国の先進的な取組を国内に還元して参りたいと思います。

本視察団の技術交流を受け入れて頂きました東京都第三建設事務所の方々に厚く御礼申し上げます。



江戸川区・古川親水公園



日光・大谷川砂防堰堤群



東京都・環七地下調節池



東京都・隅田川



公益財団法人リバーフロント研究所での技術交流

(JRRN 事務局・和田彰)

12月



あの日のあの川 リレー日記 ～第65話～

あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第65話主人公 坂井友亮

(筑波大学大学院 システム情報学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川(直) 研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)

(出身地を流れる川：茨城県破竹川)

「思い出」

いつのこと？： 学生時代

どこの川？： 茨城県破竹川

こんにちは。白川研究室の坂井友亮です。私の地元の茨城県南部には破竹川という小さな川があり、ブラックバスがよく釣れることで有名で週末には他県などからも多くの方が釣りにやってきました。私の祖父母の家はこの破竹川に面しており、幼少期には私は毎日のように祖父母の家を訪れていたことから、川は幼少期の私にとって当たり前の光景でした。そのため私の破竹川での思い出は遠足やイベントのような非日常の体験はほとんどありません。今回はそんな多くの何気ない日常の体験の中でも比較的非常日常だった思い出について書かせていただきます。

私が幼稚園生の時は 2 つ上と 2 つ下のいとこ達と 1 つ上の姉の 4 人で、祖父母の家でよく遊んでいました。川が家の前にあると聞くと川での水遊びなどを想像しますが、破竹川は水質が悪く川底も見えないため川で水遊びをする人は誰ひとりとしていませんでした。その代わりといっちはなんですけど堤防の上を平均台代わりに歩いたり花火をしたりして遊んでいました。そうした幼稚園生時代で特に印象的なのが橋を架けたことです。橋といっても川幅 5m 以上はある破竹川にはありません。破竹川から分岐している幅 50 cm 程度の農業用の用水路に橋を架けました。破竹川の周辺には水田が広がっていて、水田に利用する用水路などもたくさんあります。私たちはそれらの用水路を飛び越えたりしながら走り回っていたのですが、2 歳年下のいとこはまだ小さく用水路を飛び越えることが出来なかったため、橋を架けて渡れるようにしようということになりました。私たちは体重を支えることができる丈夫そうな竹を拾い集めせせと運び、それらを用水路に架けました。今振り返るとただ竹を並べただけですが、小学生から幼稚園生の当時の 4 人にとっては一大プロジェクトであり、完成の際には非常に大きな達成感を感じたのを覚えています。架けられた橋は 4 人の名前の頭文字から「とひゆま橋」と名付けられました（その後私に弟ができて橋の名前は「とひゆまし橋」に改名されました）。私が中学生の時にその橋を見に行った時にはまだ橋はありましたが、今はどうなっているのかわかりません。

小学生になってからの思い出で最も記憶にあるのは、祖父母の家がある集落で火事があったときです。臨場感が出るようにと文体を変えましたがご容赦ください。

ある日、小学生になった私は母親と一緒に祖父母宅に向かっていました。祖父母宅がある集落に近づくにつれ黒い煙が上がっているのに気が付きました。どうやら集落の端の空き地でボヤになっていて、高校生らしき人が一人で消火しているようでした。祖父母宅に着くやいなや私はバケツを手に取り水道から水をくみ、急いでボヤがあった場所に向かいました。現場までは 200m ほどでしたが水をいっぱいにくんだバケツを持つ小学生の私の足取りはとてつもなく遅く、到着までに 10 分以上かかったように思われます。到着したところにはバケツの水は歩くときの衝撃で半分ほどがこぼれており、さらにバケツを持つ手は重みでとても痛く泣きそうでした。そんな泣きべそ状態で到着した私の目に飛び込んできたのは驚きの光景でした。なんと大人たちが川からバケツで水をすくい取り、そのままバケツリレーで火元まで運び消火していたのです。私が祖父母宅から水が入ったバケツを運んでいる間に、ボヤを目撃した私の母が集落中に連絡し、住民が一丸となって消火にあたっていたのです。こんなにも苦労して水を運んできた私はなんだったのかと子供ながらに絶望しました。その後消防車が到着して火は消し止められ、幸いなことに火事による目立った被害はありませんでした。消火の際には住民も消防車も川の水を利用して、「火事の際に川がもつ役割」という点において火災訓練などでは決して得られることのできない大きな学びを得ることができました。余談になりますが、私たちが最初にボヤを目撃したとき、ボヤがかなり大きくなってもお高校生らしき人が一人で消火しようとしていたのは、出火の原因がその高校生が火遊びをしてそれが燃え広がったことだったため周りに助けを求めにくかったからだそうです。皆さん火遊びには注意しましょうね。

中学・高校と祖父母宅を訪れる機会は減りましたが、大学生になったいまでは農家である祖父母の田植えや稲刈りの手伝いをしに行くことが多々あり、破竹川の新たな面に気づくことが出来ました。4 月下旬から 5 月上旬の田植えの時期になると破竹川の水が水田に引かれるため水位は大幅に低下することから、「利水」としての破竹川の役割を強く意識するようになりました。また 1 年ほど前には集落に最大浸水深が示されたパネルも設置され住民や行政の水害に対する防災意識の高まりを肌で感じています。

このように過去の記憶を掘り起こすと同じ破竹川についても、自身の成長とともに破竹川へのイメージが「遊び場」から「利水」や「水害」へと変化しているのだなと考えを整理することが出来ました。この日記は破竹川だけでなくそのほかの身近な川についても見つめなおす貴重な機会になりました。

最後に上の写真は今年の田植えの時期に破竹川周辺の水田でとった不思議な形をした雲の写真です。

最後までお読みいただきありがとうございました。

(次は熊谷陽人さんにバトンを託します)

「リバフロサポートセンター」からのお知らせ RiverFront Support Center

※「リバフロサポートセンター」は、公益財団法人リバーフロント研究所が強みとするテーマの情報、技術、研究成果、また川づくりの楽しさややりがい等を社会に発信し、水辺とまちのパートナーとして各地域の担い手を支援します。JRRN はリバフロサポートセンターと二人三脚で川づくり・まちづくり・流域づくりの推進に取り組んでおります。

第 19 回「川の自然再生」セミナーを『地域を元気にする水辺の小さな自然再生～ソーシャルキャピタルとしての可能性を考える～』をテーマに開催しました。講演動画を配信中！

「小さな自然再生サポート」事務局（担当：和田彰）

令和4年11月16日（水） 14:00～17:00

14:00～14:05 来賓挨拶 国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課長 豊口 佳之

14:05～14:25 【講演 1】

河川環境と地域連携～小さな自然再生への期待

国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課 課長補佐 赤道 正悟

14:25～14:55 【講演 2】

流域治水と小さな自然再生

滋賀県立大学 准教授/(公財)リバーフロント研究所 技術参与 瀧 健太郎

14:55～15:25 【講演 3】

多自然川づくりに必要な小さな自然再生の技術

(株)北海道技術コンサルタントシステムデザイン計画室 岩瀬 晴夫

----- 15:25～15:40 休憩 -----

15:40～16:10 【講演 4】

矢田川バープエプロジェクトにおける小さな自然再生の取り組み

愛知県 建設局 河川課環境・海岸グループ 主査 片岡 雅貴

16:10～16:40 【講演 5】

人と生物のネットワークによる駒生川の再生

駒生川に魚道をつくる会/美幌博物館学芸員 町田 善康

16:40～16:55 【講演 6】

全国に広がる水辺の小さな自然再生

(公財)リバーフロント研究所 水環境・まちづくり防災グループ 研究員 和田 彰

16:55～17:00 閉会の辞

(公財)リバーフロント研究所 代表理事 塚原 浩一

■全講演動画はこちらからご覧頂けます。⇒ https://www.rfc.or.jp/ivent2022_shizensaisei.html

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ (2022年11月末まで提供分) Information from member

【JRRN 会員からの提供情報】

■ 企画展「雨展～あらぶる雨・めぐみの雨～」が 12 月～2 月に中部地方整備局管内を巡回

JRRN も運営に協力する水の巡回展ネットワーク(JAWANET) 企画製作の巡回展「雨展～あらぶる雨・めぐみの雨～」が、12 月から 2 月にかけて中部地方整備局管内の 5 箇所を巡ります。お近くを巡った際には是非お越しください。

- ①木曾三川公園センター (水と緑の館内展示スペース)
展示日時：2022 年 12 月 3 日(土)～12 月 13 日(火)9:30～16:30※休館日：毎月第 2 月曜日
- ②アクアワールド水郷パークセンター (パークセンターホール)
展示日時：2022 年 12 月 18 日(日)～2023 年 1 月 10 日(火)9:30～16:30※12 月 31 日、1 月 1 日
- ③天竜川総合学習館 かわらんべ
展示日時：2023 年 1 月 15 日(日)～1 月 24 日(火)9:00-17:00 ※休館日：毎週月曜日・祝日の翌日
- ④静岡市駿機都市山村交流センター 安倍ごころ
展示日時：2023 年 1 月 29 日(日)～2 月 7 日(火)9:00～17:00※休館日：月曜日(但し祝日の場合は翌日)
- ⑤狩野川資料館
展示日時：2023 年 2 月 15 日(水)～2 月 27 日(月)10:00～16:00※休館日：火・木・土・日(祝日)

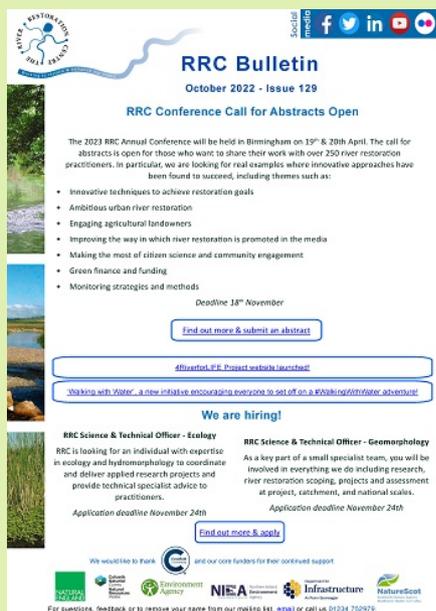
◆詳細は以下参照
<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/4138.html>



【海外からの提供情報】

■「RRC (英国河川再生センター) 最新会報」紹介

RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (2022 年 10 月号) が事務局より届きました。本号では、2023 年の RRC 年次総会の発表募集、RRC スタッフ募集案内、また英国における河川再生行事等が紹介されています。



◆詳細は以下参照
<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/4135.html>

【海外からの提供情報】

■「ECRR (欧州河川再生センター) eNEWS 最新号」紹介

ECRR (欧州河川再生センター) の eNEWS 最新号 (2022 年 11 月号) が事務局より届きました。本号では、欧州河川賞の最終選考河川や河川再生に関わる国際行事の案内、土砂管理に関する手引き発行、欧州の河川連続性に関するウェブサイト設立等が紹介されています。



Content

- Introduction
- European Riverize 2022 Finalists
- 25th International River Symposium goes Free Flow!
- Open Rivers Programme Call for Expressions of Interest
- Free-Flowing Rivers website launched
- Integrated sediment management: Guidelines and good practices in the context of the Water Framework Directive
- Large Wood for Living Rivers: Techniques and Results Recorded Webinar
- Free Flow Project: Two Webinars!
- 2023 RRC Annual Network Conference
- SARR Conference - Scientific Advances in River Restoration



◆詳細は以下参照
<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/4132.html>

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

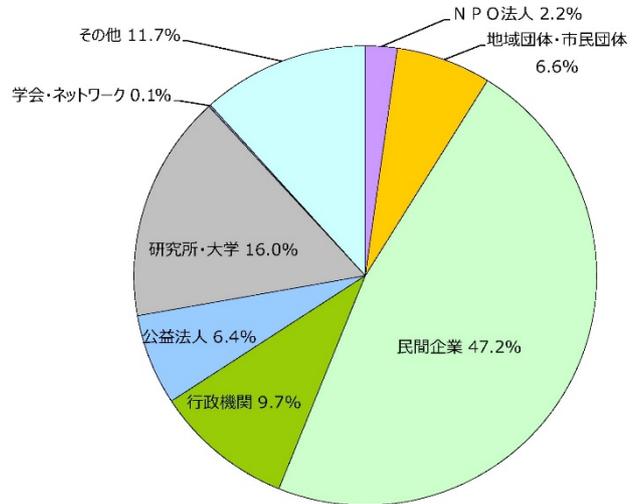
会員登録をされた方々へ様々な「会員特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週1回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2022年11月30日時点の個人会員の所属構成

(個人会員数：833名、団体会員数：65団体)

※10-11月の新規入会数：個人会員1, 団体会員0

JRRN 会員特典一覧表 (団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局

〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 NMF 茅場町ビル7階 (公財) リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

